

それから、一週間が過ぎた。

今現在、静雄の中で一つの結論が出ている。

すなわち、竜ヶ峰帝人は世界で一番可愛い生物に違いない、と。

(本気で可愛いよなあいつ)

にこつと少し首をかしげて笑うと絶品だ。ひたすら可愛い。今までどうして自分はあるに可愛い生き物に気づかず生きていたのだらうと思うほど。

思えば本当に不思議だ。初めて逢った時や、彼とこうして日々を過ごすきっかけとなったあの日、彼とちゃんと話すまで自分は彼をそんな風には思わなかった。今は彼を見るたびにその可愛らしさをしみじみと、つくづくと再認識する日々だというのに。

今となつては彼を『普通』とはとても思えない。なにしろとにかく可愛い。ちよつと可愛い、どころではなく、ものすごく可愛い。

性格も素直で良いし、料理の腕もまずまずだ。おかげで、最近仕事が終わって帰宅するのが楽しみで仕方がない。

なにしろ帝人が夕飯を用意して待ってくれている。そうして『お帰りなさい、静雄さん』と言ってくれる。『お仕事お疲れさまでした』と労ってくれたりする。

おかげで最近の自分は仕事熱心だ。早く仕事が終われば早く帰れる。

そうすれば、その分だけ長い時間、帝人と過ごすことができる。そうなれば、どうしたって仕事も張り切るというものだ。

帝人と過ごす時間は、それ以外の理由でも当初よりも延長傾向にあった。聞けば、彼は洗濯機を持つていないらしい。そして彼の住まうアパートには風呂もシャワーもない。

———なら、ここで洗濯して、風呂も入ってけ。

そう静雄が告げたのはごく自然の成り行きでしかない。どうせ自分も洗濯はするし、風呂だってはいいる。そこに帝人が加わったところで大差ない。夕飯代は外食時より安上がりなくらいなので(これは帝人が未だにタイムセールを愛用しているのも大きな理由と思われる)今の方が経済的なくらいだ。

帝人にとつても、悪い話ではなかったはずだ。コインランドリーも銭湯もそれなりに金がかかる。そして今、帝人は貧民生活を余儀なくされている状態だ。食費を切り詰めていたのも、どうやら主に銭湯代を確保するためだったらしい。確かに、風呂に入らず一週間やら十日やらは過ごせないだろう。

結局、遠慮して申し訳ながって逡巡したあと、彼は頷いた。

何から何まですみません、と謝罪の言葉をよこしたが、おかげで帝人が風呂掃除や洗濯までしてくれるようになったので、静雄としてはいろいろと楽になったのも事実だ。昨日などはアイロンまでかけてくれていた。